



節分にちなんで、31日(金)に全園児による「豆まき」を行いました。10時になりクラスごと園庭に集合しました。それぞれが頭に自分たちで製作した「鬼のお面」を付け、園舎東側のベランダに座ったり園庭で遊んだりしています。全学年が集合すると、体操の時のようにクラスごとに並びます。進行役の亜沙美先生と一緒に「朝のご挨拶」と、いつものように「5つのお約束」をみんなで言いました。次に、亜沙美先生から「今日は豆まきをします」という始まりの言葉があり、次に園長先生のお話がありました。「みんなの心の中にある『意地悪をする鬼』『すぐ泣いてしまう弱虫の鬼』などを追い出しましょう。また、そのために、『鬼は外』と言って外へ追い出し、幸せを呼ぶ福は『福は内』と言って自分の中に呼び込みましょう。」というような話がありました。「節分」と「豆まき」については、「季節の分かれ目：節分」は邪気が入りやすく、特に旧暦では立春のころは当時の新年の始まりだったため、最も大切な節目とされ、そこで「鬼を追い払う邪気祓いの行事」として「豆まき」が始まったのだそうです。



いよいよクラスごとの「豆まき」の始まりです。子ども達が先生と一緒に準備を始めました。(子どもたちの頭には色とりどりの「鬼のお面」がつけられ、また首からは「豆入れ」が下げられました。3学期に入り、今日のために各クラスで製作したものです。)

年長組の「お面」は、赤や青などの工作用紙を使い、目の部分をハサミで切り抜きました。髪の毛は色画用紙を細く切り込みを入れクルリと丸めました。角も色画用紙を鬼の角のように三角形に切り取り模様をつけました。そして、それぞれのパーツを貼り合わせ個性豊かなお面に仕上がりました。

「豆入れ」は2つの紙コップに、それぞれ違う色の折り紙を貼り付けます。上部になる紙コップには、白い紙に描いた「目」や、色画用紙を切り取って作った「口」、花紙を丸めて作った「髪の毛」を貼り付けました。下になるコップに豆を入れ、上部に鬼をイメージしたコップを重ね完成させました。年長さんらしく先生の手をあまり借りず、自分たちで頑張って作りました。さすが、年長さんですね♡



年少組の「お面」は、保育参観の時に「親子製作」として作りました。男の子は青の画用紙、女の子は赤の画用紙を使用しました。子ども達が、色画用紙に目や鼻、ツノなどをハサミで切って貼り付けました。また、鬼の髪の毛は毛糸を使い自分たちでくっつけました。

